

# 令和元年度(2019年度)セタシジミ資源概況調査

井戸本純一

## 1. 目的

近年、セタシジミの漁獲量は100トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、産卵期にあたる5～7月の禁漁期間中に実際の漁具を用いて調査を行っている。

## 2. 方法

2019年5月25日および27日に琵琶湖北湖一円の主要7漁場を含む16漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網（開口幅168cm、網目3cm）を用いて調査した。前年の台風の影響で瓦礫の大量混入が予測されたことから、曳網時間は船頭の任意とし、各漁場内で3回繰り返してそれぞれ採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。短い曳網における誤差の増大を避けるため、貝桁網に加速度ロガーを取り付けて振動を記録し、着底時刻を特定してGPSの軌跡から曳網面積を算出した。

## 3. 結果

資源密度は、全漁場の平均では前年の0.90個体/m<sup>2</sup>から0.34個体/m<sup>2</sup>と大幅に減少した（表1）。地域別では、主要漁場を含む東岸では0.96個体/m<sup>2</sup>から0.40個体/m<sup>2</sup>（42%）への減少であったのに対して、台風の被害が大きかった西岸では0.76個体/m<sup>2</sup>から0.21個体/m<sup>2</sup>（28%）へと著しかった。

主要漁場の資源密度は、すべての漁場で減少し、とくに松原と磯で著しかった（図1）。サイズ別にみると、殻長18mm以上の密度は平均で0.30個体/m<sup>2</sup>から0.18個体/m<sup>2</sup>（60%）への減少であったのに対して、殻長18mm未満は0.69個体/m<sup>2</sup>から0.21個体/m<sup>2</sup>（30%）へと大幅に減少した（図2）。

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。

表1 2019年禁漁期における琵琶湖北湖一円の漁場別資源密度

漁場	曳網回数	平均曳網面積(m <sup>2</sup> )	平均資源密度(個/m <sup>2</sup> )	標準偏差	
東岸	今西※	3	75	0.63	0.48
	長浜※	3	105	0.19	0.06
	磯※	3	148	0.67	0.17
	松原※	3	130	0.26	0.08
	石寺	3	169	0.29	0.13
	新海	3	127	0.18	0.07
	沖島東※	3	119	0.37	0.15
	沖島西※	3	175	0.37	0.11
	沖島南西※	3	171	0.28	0.18
	牧	3	123	0.70	0.38
菖蒲	3	71	0.45	0.18	
西岸	海津	3	110	0.14	0.01
	針江	3	160	0.05	0.05
	鴨川	3	146	0.30	0.11
	高島	3	57	0.48	0.26
	近江舞子	3	202	0.10	0.02
平均	全体			0.34	
	主要漁場※			0.40	

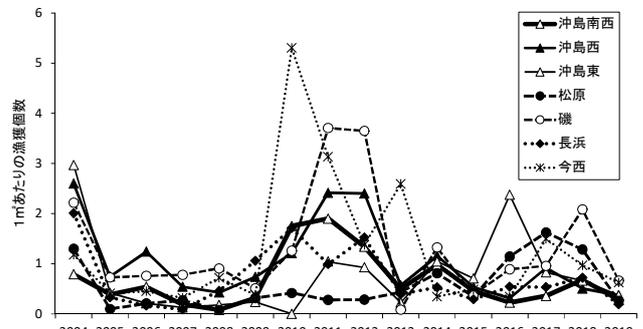


図1 各主要漁場における資源密度の推移。

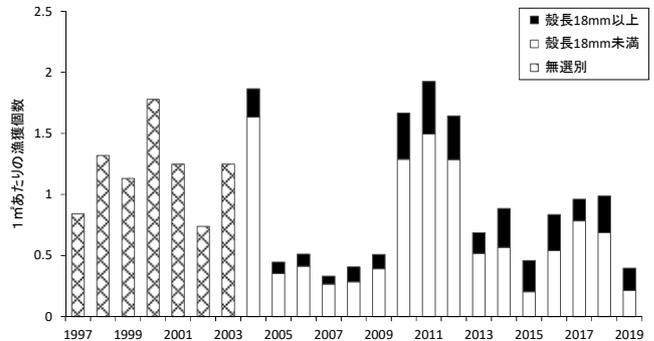


図2 主要7漁場における平均資源密度とサイズ別内訳の推移。